

第9章 鎌倉市環境教育行動計画

1 環境教育（目標項目⑯）

目標：意欲的に環境保全に取り組む人を育てます。

◆基本方針

- 持続可能な社会の形成に向けた環境教育を推進します。
- 自ら行動しようとする「こころ」を育てます。

持続可能な社会を構築していくためには、すべての人が様々な場所で環境保全に向けた実効性のある取組を実践することが必要であり、このためすべての人を対象とした環境教育の充実が不可欠であることから、平成 15 年(2003 年)に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律（平成 15 年法律第 130 号）」が制定され、平成 23 年度(2011 年度)には協働取組の推進等を盛り込み、題名を「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」として改正されました。

自然的環境と歴史的環境に恵まれた本市では、環境に対する市民の意識が高く、幅広い分野で市民による自発的な環境保全活動が行われています。

本市では、平成 19 年(2007 年)に「鎌倉市環境教育推進計画」を策定し、また平成 27 年度(2015 年度)には持続可能な開発のための教育（ESD）の趣旨を反映するなどし、「鎌倉市環境教育行動計画」として改めて策定しました。本市ではすべての人が身近な環境から国や世界、将来世代の環境を意識して行動できることを目指した環境教育を推進しています。

目標を達成するための取り組み

第1節 ライフステージに応じた環境教育の実施

環境教育は継続的に行うことや、年齢・ライフステージに応じて取り組んでいく必要があるため、環境問題に関心を持つための情報提供や学習会等の実施を推進し、環境保全に対する知識の増進及び知識の芽の育成に取り組みます。

主な事業	事業内容	実績
夏休み子ども向け自然観察会（少年期） 【環境政策課】	環境保全の普及啓発のため、夏休み子ども向け環境学習会を開催します。	令和4年度(2022年度)においては、新型コロナウイルスの影響により実施はなし。
出前講座（少年期） 【環境保全課】 【ごみ減量対策課】	<環境保全課> 小中学校の児童生徒を対象に、大気汚染やエネルギーの有効活用等、環境についての講義を実施します。 <ごみ減量対策課> 市内保育園、幼稚園や小中学校の児童生徒を対象に、ごみの減量・資源化の啓発等についての講座を実施します。	<環境保全課> ○水生生物等環境調査 令和4年度（2022年度）実績：参加校：1校、参加人数：63名 <ごみ減量対策課> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、主にオンライン形式による環境教育を実施し、感染状況をみて、一部対面や集合形式で実施しました。
下水道に関する啓発活動の実施（少年期以上） 【下水道経営課】 【浄化センター】	下水道事業への理解や普及の促進維持活動の充実を図るため、PR事業を実施します。	<下水道経営課> ・9月10日「下水道の日」に合わせ鎌倉市下水道週間を定め、市が独自に作成した下水道啓発ポスターを、鎌倉市立の小中学校及び支所等に掲示しました。また、鎌倉駅地下道「ギャラリー50」へのパネル展示を行い、下水道事業についての理解促進を図りました。 <浄化センター> ・市内在住・在学の小学生とその保護者を対象に、「夏休み親子下水道教室」と題して、下水処理場の見学や簡単な水質実験等を行い、下水道事業の周知及び理解促進を図った。（参加者：16組39名）

農業体験事業の実施 (少年期から高年期) 【みどり公園課】 (指定管理者) 【環境政策課】	アドバイザーの派遣や都市公園での農業体験を実施します。	鎌倉中央公園において、(公財)鎌倉市公園協会と「山崎・谷戸の会」が協働して自然や農業に対する理解や関心を深めるため、市民を対象に農業体験を実施しました。 田んぼ体験(4月3日～3月12日)は延べ482人、畑体験(4月10日～3月15日)は延べ205人の参加者がありました。
食育に関する啓発活動の充実(少年期から高年期) 【市民健康課】	食品廃棄物の発生抑制や再生利用等の環境にやさしい「食」生活を推進します。	食に関する講座において、野菜の皮を使った出汁の取り方の紹介や、離乳食ストックの保存方法を紹介し、食品ロスが少なくなるよう声かけを行った。
緑の学校(青年期) 【みどり公園課】	緑の効用や仕組みへの理解を深めるため、講義や自然観察会を実施します。	新型コロナウイルス感染症に伴う影響により開催しなかった。

●環境に関する作品コンクール

＜みどり公園課・下水道経営課＞

夏休みの自由研究として、平成7年度（1995年度）から毎年、市内の小学校4～6年生と中学生を対象に環境保全に関するポスターの「作品コンクール」を実施しています。

令和4年度（2022年度）は、新型コロナウイルスの影響により実施しませんでした。

9月10日の「下水道の日」にちなみ、公益社団法人日本下水道協会及び（株）日本水道新聞社主催で、小中学生及び一般の方からポスターや書道作品を募集する「下水道いろいろコンクール」を実施しています。

鎌倉市立の小中学校及び支所等にポスターの掲示等を行い、コンクールについて周知しました。

●環境保全関連講座の開催

＜青少年課・生涯学習課＞

市民や青少年を対象に、環境保全に関心を持ってもらうため、表9-1のとおり講座を開催しました（一部の講座は新型コロナ感染症拡大予防のために開催を中止しました）。

表9-1 環境保全関連講座開催状況

講座名	開催期日・主催	参加者数
ペットボトルでけん玉を作ろう	令和4年7月6日 放課後かまくらっ子ふかさわ	65名
SDGs ゴミ分別ゲームバトル「分ければ資源、混ぜればゴミ」	令和4年7月29日 放課後かまくらっ子せきや	25名
トイレットペーパーの芯でびよんぴよんかえる	令和4年8月10日 放課後かまくらっ子ふかさわ	23名
リサイクルプラ板	令和4年9月28日 放課後かまくらっ子せきや	44名
ビーチクリーン@腰越	令和4年5月11日 放課後かまくらっ子こしごえ	36名
ビーチクリーン@ちびっこ ビーチセイバーパーク	令和4年7月6日 放課後かまくらっ子こしごえ	32名
SDGs 工作	令和4年8月18日 放課後かまくらっ子いまいずみ	20名
谷戸のお手伝い 「丸太の皮むき」	令和4年9月2日 放課後かまくらっ子やまさき	20名
ビーチクリーン	令和4年11月9日 放課後かまくらっ子こしごえ	40名
ビーチクリーン	令和5年3月20日 放課後かまくらっ子こしごえ	40名
マイクロプラスチックでストラップを作ろう	令和5年2月8日 放課後かまくらっ子にしかまくら	60名
海のお話	令和4年7月22日 放課後かまくらっ子おなり	43名

身近な自然環境や生活環境等に興味を持ち、環境保全に対する認識を深めたり、行動力等を身に付けたりするという、いわゆる「生きる力」の育成に視点を置きながら、地球環境の問題や、リサイクル、ごみ問題などをテーマにして、市内小・中学校において、総合的な学習の時間での環境教育・学習の充実を図っています。※牛乳パックのリサイクルについては、小・中学校全校で実施していましたが、令和4年度（2022年度）はコロナ禍により実施していない学校もあります。

表9-2 公立小・中学校における環境教育の取組

学 校 名	内 容	学 年
第一小学校	海・野山で自然と触れ合う	1～3年
	稲、野菜、花の栽培	全学年
	環境学習（ごみとリサイクル）	全学年
第二小学校	野菜、花の栽培	全学年
	環境学習（ごみ問題・リサイクル・水の学習）	4年
	環境学習（ゴミの分別）	全学年
	地域の自然調査	3年
御成小学校	環境学習（ゴミの分別）	全学年
	環境学習（ビーチクリーン）	5・6年
	野菜・花の栽培・観察	全学年
	自然との触れ合い	1・2年
	水の学習	4年
	稲の栽培	5年
	生物の飼育・観察	5年
稲村ヶ崎小学校	稲・野菜・花の栽培と観察	全学年
	自然との触れ合い	全学年
	環境学習（ごみ問題・リサイクル）	4年
七里ガ浜小学校	生物の飼育、稲・植物の栽培と収穫	全学年
	広町の自然と触れ合う	1～6年
	環境学習（ごみ問題・リサイクル・水の学習）	4年
腰越小学校	稲・野菜・植物の栽培、観察	全学年
	生物の飼育・観察	全学年
	上下水道について	4年
	環境学習（海・ごみ・温暖化）	5年
深沢小学校	稲・野菜・草花の栽培と収穫	1～5年
	自然とのふれあい、観察	1～4年
	環境学習（ごみと水問題）	4年
	人と環境	6年

学 校 名	内 容	学 年
	谷戸の活動	5年
小坂小学校	稲の栽培・谷戸の活動	5年
	野菜の栽培・収穫	1・2年・特別支援級
	水の学習	4年
玉縄小学校	稲・野菜・花の栽培	全学年
	環境学習（出前授業・水問題・SDGs）	4・6年
	水・森林の学習と調べ学習	4年
	漁業（資源問題と調べ学習）	5年
山崎小学校	地域の自然観察	全学年
	稲・野菜の栽培	全学年
	生物の飼育（カイコの飼育）	3年
	環境学習（ごみ問題・水・リサイクル）	4・6年
西鎌倉小学校	稲・野菜・花の栽培	1～3・5年
	自然との触れ合い・観察	全学年
	環境学習（リサイクル）	全学年
	環境学習（宮ヶ瀬ダムほか・浄化センター・クリーンセンター見学）	4年
今泉小学校	野菜・花の栽培	全学年
	自然との触れ合い・観察	1・2年
	環境学習（山崎浄化センター他見学、水・ごみの調査・学習）	4年
	環境学習（出前授業・稲（米）について）	5年
富士塚小学校	稲・野菜・花	1～5年
	植物栽培、畑づくり	1～3年
	中央公園の自然と触れ合う	1～3年
	環境学習（SDGs・水・ごみの調査・学習）	3・4年
	谷戸の活動	5年
関谷小学校	関谷川（水質調査）環境学習	6年
	野菜、花の栽培	全学年
	地球の環境について（絶滅危惧種等）	4～6年
	生物の飼育	3年
大船小学校	野菜・花の栽培	全学年
	環境学習（水・ゴミについて）	4年
	自然とのふれあい・観察	1・2年
	生物の飼育	1年
植木小学校	稲・野菜・花の栽培	全学年
	地域の自然観察	1～3年

学 校 名	内 容	学 年
	環境学習（ごみ・水・リサイクル・エネルギー等）	4～6年
第一中学校	作物の栽培	特別支援級
	防災学習（逃げ地図・避難所体験・地域調査）	全学年
第二中学校	自然とふれあう体験活動	2年
	作物の栽培	特別支援級
御成中学校	南斜面の整備	科学部
	野菜の栽培	科学部
	海の清掃	ボランティア部
腰越中学校	海や川の清掃	1・2年
深沢中学校	作物の栽培	特別支援級 科学部
手広中学校	防災学習（防災マップ・避難所体験）	全学年
	学校緑化	全学年
大船中学校	「郷土」をテーマとする調査・体験活動	1年
	作物の栽培	特別支援級
玉縄中学校	自然とふれあう体験活動	2年
岩瀬中学校	作物の栽培	特別支援級 自然科学部

私立学校における環境教育の取組例

学 校 名	北鎌倉女子学園中学校高等学校	代表者	佐野 朗子
取組状況 鎌倉三大緑地のひとつである台峯緑地に囲まれ、自然に恵まれた本校では、その豊かな自然を利用した環境教育を行っています。まず、中学1年時に学習する理科では「身近な植物の観察」を学校の敷地内の広い野外にて行います。そこでは、近頃の子どもたちにとっては珍しい様々な「野草」を観察することができます。また、6月には清里で自然学習を行い、昼と夜の森の違いを体感し、食べられる野草を食べ、お茶を作り、北鎌倉とは異なる自然に接していきます。そして高1はグラウンド周辺の山の樹木を観察し、身近に自然を感じ、耕地から自然に戻った変化を実際に見ることができます。こうして一年を通して自然本来の姿を理解し、人間と自然の共存を学ぶ機会としています。 他に中学3年生が水質調査（COD）を学校周辺の野外、小袋谷川にて行います。また、中1は12月に、谷戸の池から鎌倉中央公園まで全員で山歩きを行いました。 中3 水質検査  中1 山歩き 			

事業者による環境教育・啓発活動の実施

学校教育支援活動として、出張授業を実施。令和4年度の鎌倉市内では、小学校1クラス、中学校1クラスを実施。【東京ガス株式会社】

環境教育を実践できる人材の育成と活用

環境教育や環境保全活動等の推進における指導者や教職員の育成や資質の向上に努めるとともに、指導者を地域の環境学習会等に派遣するなど、地域や学校の取り組みを支援します。

主な事業	事業内容	実績
緑のレンジャー（ジュニア）の育成 【みどり公園課】	自然の生き物や草花とふれあうことで自然に対する意識の高い緑のレンジャー（ジュニア）を育成します。	新型コロナウイルス感染症に伴う影響により開催しなかった。
緑のレンジャー（シニア）の育成 【みどり公園課】	市民との連携推進の一環として、豊かな兵陵の樹林地を管理する緑のレンジャー（シニア）を育成します。	令和4年5月から令和5年2月までに全10回を実施し、26名（延べ197名）が参加した。
アドバイザーの派遣 【環境政策課】	環境教育アドバイザー派遣制度により、環境に関する専門的な知識や経験を有する、アドバイザーを派遣し出前授業を行います。	講習会等に37回、200人のアドバイザー及び補助者を派遣。 受講者数延べ1,474名
学校職員の環境教育 【教育センター】	学校職員が環境に関する知識や技術を習得するため、環境教育の研修会を開催します。	鎌倉市初任者研修会 テーマ「自然体験から人間の感性を育てる」 講師 五感教育研究所 高橋 良寿 氏 日時：8月19日（金） 会場：県立足柄ふれあいの村 参加者：13名

第2節 環境教育をする場、素材の整備

環境保全活動や自主的な環境学習活動を促進していくために、水辺、緑地といった、環境学習フィールドとして適した場所についての地域づくりを推進します。

主な事業	事業内容	実績
緑地の整備促進 【みどり公園課】	自然環境の保全、活用を基調に、健康づくり、ふれあいや憩いの場づくりとして、緑地を整備・充実します。	社会資本総合整備計画に基づき、グリーンインフラ活用型都市構築支援事業を実施。 山崎・台峯緑地については、風致公園拡大区域部分は整備を行い、令和4年（2022年）5月16日に約26.5haへ区域を拡大。都市緑地部分は令和元年（2019年）7月26日に都市計画事業認可を受け、用地取得を実施中。 市民の身近な森づくり事業（常盤山特別緑地保全地区、寺分一丁目特別緑地保全地区及び梶原五丁目特別緑地保全地区）を6回実施。
公園の整備促進 【みどり公園課】	自然とのふれあいのできる場づくりとして、都市公園の整備を行います。	社会資本総合整備計画に基づき、グリーンインフラ活用型都市構築支援事業を実施。 山崎・台峯緑地については、風致公園拡大区域部分は整備を行い、令和4年（2022年）5月16日に約26.5haへ区域を拡大。都市緑地部分は令和元年（2019年）7月26日に都市計画事業認可を受け、用地取得を実施中。
ハイキングコースの維持管理 【観光課】	市民、観光客が豊かな自然に親しむことのできるハイキングコースの維持管理を引き続き行います。	市民及び観光客が利用しているハイキングコースについて、安全で快適な状態に保たれるようにパトロールを実施しました。また、令和4年度（2022年度）は、令和元年度に発生した台風の影響により通行止めとなっていた祇園山ハイキングコースについて復旧業務を行い、通行を再開しました。
ビオトープ等の整備 【環境保全課】	市庁舎前に整備したビオトープにおける生物の自然な生息を維持し、自然観察の場を提供します。	平成13年（2001年）に隣接する御成小学校の児童とともに市庁舎前の池をビオトープとして整備し、来庁する市民等が身近に自然観察を行える場として維持管理を実施。
鎌倉の環境保全の解説 【環境保全課】	希望者に鎌倉の環境保全についての解説を実施します。	令和4年度（2022年度）は実績なし。
日本遺産事業 【日本遺産いざ鎌倉協議会】	日本遺産の情報発信、普及啓発等のため、事業を行ないます。	平成28年（2016年）4月に認定された日本遺産のストーリーを通じて、魅力発信等の取組を進めました。

環境教育をする場、素材の整備におけるその他取り組み

●生涯学習ガイドブック

＜生涯学習課＞

毎年発行している「生涯学習ガイドブック」には、様々な分野の生涯学習の指導者、学習グループ・サークル、生涯学習施設などを掲載しており、自然や環境の分野に関わりのある指導者、グループについても募集しています。

●教育資料の刊行

＜教育センター＞

学校における学習資料など、環境分野の教材の充実に努めています。小学校3・4年生社会科学習資料「かまくら」や中学校社会科学習資料「私たちの鎌倉」、中学校理科学習資料「鎌倉の自然」において、市の環境政策の概要や市内に生息する動植物・地質などについて紹介しています。

●環境に関する図書館資料の充実

＜中央図書館＞

鎌倉市図書館には、環境をテーマとした資料が4,061点(図書3,819点、雑誌116点、AV資料126点)(令和5年(2023年)3月現在)あり、市民の環境学習を支援しています。

第3節 環境教育に関する情報提供

「ライフステージに応じた環境教育の実施」、「環境教育を実践できる人材の育成と活用」、「環境教育をする場、素材の整備」の施策を充実させるため、環境教育に関する情報提供を行います。

●広報かまくら

＜広報課＞

市の情報提供媒体として、原則毎月1回発行している広報紙「広報かまくら」があります。主な環境教育関連記事として、リユースネットかまくら、リサイクル推進会議、野生動物への対応、光化学スモッグへの注意喚起、食品ロス削減、地球温暖化防止、おうちでエコ活、冬の省エネ、再生可能エネルギー・省エネ機器等設置に補助金、などを掲載しました。

●鎌倉ごみ減量通信

＜ごみ減量対策課＞

鎌倉市のごみ減量・資源化施策を紹介する鎌倉ごみ減量通信を1回発行しました。

●J:COM 湘南・神奈川

＜広報課＞

ケーブルテレビ「J:COM 湘南・神奈川」の「鎌倉市からのお知らせ」として、1回10分程度の番組を毎月1日～15日、16日～その月の末日の各約15日を1サイクルとして年間24本制作、1日4回の放映を行い、環境関連を含む市のさまざまな情報について紹介しました。

●かまくらFM

＜広報課＞

かまくらFMの市政情報番組「かまくらじお」でも、環境関連を含むさまざまな市の情報について放送しました。放送は月曜日～金曜日は1日6回、土・日曜日は1日2回です。

●市ホームページ (<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>)

＜広報課＞

インターネットを活用し、環境関連などさまざまな情報を発信しました。従来、紙媒体で提供していた情報から電子情報への切り替えによる紙資源の節減などを通じて循環型社会の形成に役立っています。

また、生活環境のページ

(<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kurashi/seikatsu/index.html>)では、「鎌倉市の環境政策」、「環境調査データ集」などのデータのほか、その時々環境トピックスも掲載しています。あわせて環境計画のページ

(<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kurashi/seikatsu/kankyouseisaku/kankyouseisaku/index.html>)では、「かまくら環境白書」などの各計画について掲載しています。

なお、ごみ・リサイクルのページ(<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kurashi/gomi/index.html>)でも、「資源物とごみの分け方・出し方」などを掲載し、循環型社会の形成に向けて情報を公開しています。

●facebook(<https://www.facebook.com/kamakuracity.hisyokoho>)

＜広報課＞

主に行政情報をお知らせしており、随時更新しました。

●X (旧 twitter) (鎌倉市インフォメーション) (https://x.com/kamakura_koho)

＜広報課・担当課＞

市ホームページのトップページにある「お知らせ」欄や広報かまくらに掲載された情報などを、鎌倉市インフォメーションの X にも掲載しています。X には掲載できる文字数に限りがあるので、市ホームページのアドレスを掲載し、詳細は各ページで確認できるようにしました。

●Youtube (<https://www.youtube.com/user/KamakuraOfficial>)

＜広報課・担当課＞

J:COM 湘南・神奈川で放送した市政情報番組「鎌倉市からのお知らせ」や市長記者会見などを掲載しました。

●市公式LINE

＜広報課・担当課＞

Bot 機能を搭載したごみに関する市の別アカウント「鎌倉ごみ調べ」と連携し、ごみの出し方などについて情報発信しました。

●暮らしのガイドブック

＜広報課＞

暮らしのガイドブックは市役所の窓口などの行政情報や日常生活に役立つよう作成された冊子です。中ほどにある特集ページでは、ごみ減量への取り組みを掲載し、特集ページに続いて行政ページでは、資源物の収集方法や生ごみ処理機の助成制度なども掲載しました。

●市公式 note (<https://kamakura-city.note.jp/>)

＜広報課・担当課＞

マガジン「そらうみまちきれい」において、ごみの分別方法や再生可能エネルギーなど市の環境に対する取り組みなどを掲載しました。

■各主体との連携

●環境保全団体活動に対する支援

〈環境保全課〉

市では、市内の環境保全団体の自発的な活動を促進するための支援策として、環境保全に関する学習会等を行う場合に講師を派遣する助成のほか、活動における通信費の負担を軽くし、より多くの環境保全情報を提供するため、環境保全団体の会員の方への会報などを郵送する通信助成を行っています。さらに、環境保全団体が実施する催しについての後援も行っています。後援の内容は、後援名義の使用承認、催しの施設提供、「広報かまくら」への掲載及び必要な電話の取次ぎなどです。なお、これまでの実施状況は表 9-3 のとおりです。

表 9-3 環境保全団体に対する支援の実施状況

年度 \ 項目	通信助成		講師派遣助成		後 援	
	団体数	支援実績	団体数	支援実績	団体数	支援実績
令和元年度	1	74 通	—	—	6	7 回
令和 2 年度	1	50 通	—	—	1	1 回
令和 3 年度	1	47 通	—	—	2	2 回
令和 4 年度	3	52 通	—	—	4	6 回

●市内環境保全団体等の活動状況

〈市民・事業者〉

市内には、自然保護、美化、環境教育など環境保全に関する様々な活動を行っている市民団体があります。

これらの団体から令和 4 年度（2022 年度）の活動内容を報告してもらい、個人情報を除く、原文のまま掲載しました。

団体名	NPO 法人 鎌倉ガイド協会	会員数	114 名	代表者	石井 武俊
活動目的	●市民団体による史跡案内				
【活動の内容】					
NPO 法人鎌倉ガイド協会は、鎌倉及び鎌倉周辺を訪れる人々や在住者に、史跡、文化財等の案内、解説をし、理解していただくことにより地域の魅力を伝え、観光の振興、文化の普及、社会教育及びまちづくりの推進に寄与することを目的として活動しています。 当協会は、協会が独自に企画して案内する「史跡めぐりガイド」、鎌倉近辺の観光ガイドを希望される方を対象として実施する「一般ガイド」、小中学校や旅行会社からの依頼により案内する「総務ガイド」を行っています。 当協会では、毎年会員を対象とした研修会を毎月開催して、史跡や自然を学び、歴史的遺産や自然環境の保全、美しい街づくりなど環境の保全・啓発に努めています。 又、当協会は、鎌倉を訪れ、鎌倉観光をされる人々に古都鎌倉の良さや自然環境の大切さを伝えています。そのために、「ごみ」の持ち帰り、植物を大切にする、周囲の環境を壊さないようにする等の啓発を行っています。併せてガイドコース下見時には担当ガイド数名がトングを持参して、道路・寺社境内のゴミ拾いを積極的に行っています。 また鎌倉市、その他が主催する清掃活動への参加、植樹の協力、散策路の整備、歩行中の人々や近隣の皆様、社寺等に迷惑のかからないようにするなど、環境に対する保全と啓発活動を行っています。					

団体名	特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会	会員数	3 2 5 名	代表者	相川明子
目的	鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観や多彩な動植物を保全する市民活動				
【活動内容】					
「鎌倉中央公園」第一工区開園(1997 年)以来、運営協力してきた谷戸ボランティアの会 10 団体の各活動を継承し、準備会議を重ね 2004 年 4 月に全面開園に合わせて行政との協働で本会を発足させました。2008 年 4 月より特定非営利活動法人団体となりました。 当会は 7 つの活動班①田んぼ班(湧き水を利用した伝統的作業の米作り)②畑班(根菜・豆・麦等を中心に、堆肥を利用した循環型の無農薬農法)③雑木林管理班(下草刈りや間伐などの雑木林の手入れなど)④農芸班(農産物・谷戸資源の加工)⑤自然遊び班(農作業の手伝いを含む子どもの自然遊び)⑥生態系保全班(動植物の観察や調査、小動物が住みやすい環境作り)⑦植物育成班(谷戸に自生する植物の保護、育成)に分かれ、鎌倉中央公園内の谷戸を昔ながらの農文化を継承して谷戸の景観と生態系を保全しています。					
＜年間の活動＞					
・ 7 つの班による、季節に応じた保全活動を実施 (270 回)、うち 70 回は(公財)鎌倉公園協会との協働事業 ・ 事務局の運営(木曜を除く毎日 6 時間、交代制で実施)、一般市民、各種団体の問い合わせ対応、案内、行政交渉、広報活動、各メディアからの取材対応、谷戸パトロール、各班の平日補助作業等 ・ 谷戸まつりを開催し(年 2 回)、保全活動で収穫した農産物や加工品を会員・一般市民に頒布 ・ 会報の発行 (年 6 回) 谷戸塾開催(全 4 5 回 内訳: 田んぼ・畑・雑木林管理班の作業各 38 回、谷戸講座 7 回実施)環境省主催モニタリングサイト 1000 里地調査・事務局員向け勉強会開催					
＜行政、公園課、公園協会との協働など＞					
3 者協議に出席、2 回の谷戸まつりはみどり公園課後援にて開催しました。					
＜主要事業及び(公財)鎌倉公園協会との協働事業＞					
理事会 (3 回)、谷戸まつり (2 回)、子ども里山体験、活動連絡会議の開催 (1 回/月)、「ホテルの紙芝居」とパトロールをしました。					
＜体験学習の受け入れなど＞					
鎌倉市環境政策課・環境アドバイザーに登録し、学校との連携を深めています。毎回、事前に学校、担当者間で打合せ、実施後は担当者・体験学習スタッフ間で反省会を行い、活動記録を作成し充実化に努めています。深沢小学校 3 年生・5 年生 特別支援教室ひだまり 富士塚小学校 5 年生 小坂小学校 3 年生 フリースクール largo の受け入れをしました。					
＜他団体の受け入れなど＞					
自然環境復元協会主催 若手ボランティア (かまくらレンジャーズ) 保全活動受け入れ・かまくら子育て支援グループ懇談会と共催 「サトイモとどろんこ」・青空自主保育「やんちゃお」保全					

活動・青空自主保育「にこにこ会」保全活動・青空自主保育「なかよし会」保全活動・NPO センター主催 高校生ボランティア体験受入れ・ NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもりと協働開催「出張冒険遊び場」・FAM 横浜アフタースクール保全活動・神奈川県気候変動調査 ヒアリング・ステークスホルダー会議参加をしました。

<他団体への訪問・交流・会議出席など>

山崎 例祭参列、かまくら子育て支援グループ懇談会月例会に出席、環境省委託 里地里山の保全活動に関するヒアリング調査協力、小袋谷御囃子会に注連縄用藁の頒布提供をしました。鶴が丘子ども会正月飾り提供

<PR・展示活動>

市民活動地下道ギャラリー展示、NPO センターフェスティバル参加、鎌倉 NPO センター「森のプラットフォーム」参加。

<取材・掲載>

鎌倉FMで毎月第2第4水曜日の朝「おはよう かまくら」にライブ出演をしました。

<農産物の寄付 提供 農機具貸し出しなど>

近隣町内会、高齢者ケア施設

団体名	鎌倉自主探鳥会グループ	会員数	150 名	代表者	岩田 晴夫
活動目的	自然観察、自然保護、水質・動植物調査、環境教育、エコアップ作業、政策提言				

【活動の内容】 新型コロナ禍のため、少人数での活動に縮小して対応しています。

私達は、(公財)日本野鳥の会の神奈川支部の趣旨に基づき、野鳥を通じて自然に親しむと共に、自然の保護と住環境のアメニティー向上を図ることを目的として活動を実施しています。

① 一般市民対象の定例自然観察会「鎌倉自主探鳥会」を毎月 2 回実施しています。

自然観察の精神と方法の普及、自然観察会リーダーの養成、地域的な自然保護活動の促進、都市公園と緑地のエコアップ(生息環境向上・生物多様性の保全)を図ること等が目的です。

コースの途中、佐助川の清掃・エコアップ・水質と水生生物調査、佐助稲荷のエコアップ(1993 年 5 月～)、源氏山公園の野鳥用水場の清掃、台峯緑地と鎌倉中央公園の動植物調査やエコアップ(1993 年 5 月～)等の作業を実施しています。

② 源氏山公園の野鳥誘致施設の管理(1984～)をしています。

③ 鎌倉市傷病鳥獣保護搬送システムへの協力を委託されています(1993～)。

④ 平成 6 年以降、鎌倉市から鎌倉市緑のレンジャー(ジュニア)指導員の委嘱を受け、鎌倉市緑のレンジャー(ジュニア)の活動を年間 10 回指導していますが、新型コロナ禍で活動休止中です。

⑤ 鎌倉市道水路管理課から道路・河川維持管理協力員の委嘱を受けています(1997～)。

佐助川のエコアップ活動・水質調査・水生生物調査・清掃・草刈り等を実施しています。

稲瀬川の水質調査と水生生物調査も、実施しています。

⑥ 鎌倉中央公園の管理運営協力団体として、鎌倉中央公園の管理に対し、既存の野生動植物ができるだけ保全されるように、基礎データを提供すると共に、具体的な方法を提示し、エコアップ作業と環境モニタリング調査を実施しています。

⑦ 「鎌倉の海岸動植物の生息分布調査」をかまくら環境会議・鎌倉市緑のレンジャー指導員と協力し、鎌倉市の後援を得て実施(1996～)し、海岸動植物の保護策を提言しています。

⑧ 神奈川県藤沢土木事務所による坂ノ下の災害復旧工事後のモニタリングを継続実施し、貴重種の保護と管理上の留意点を助言しています。

⑨ (公財)日本野鳥の会の全国一斉ガンカモ調査に協力(1 月)しています。

⑩ 鎌倉市内を春秋に通過するタカ類の渡り調査、鎌倉市内の自然環境台帳作り、酸性雨調査、河川の水質と水生生物調査、緑地のモニタリング調査等を実施しています。

⑪ 自然保護団体や自治会・学校関係の自然観察会等に講師を派遣しています。

⑫ 鎌倉メダカの系統保護を図ると共に、市役所前のビオトープ池の管理・モニタリング調査に協力しています。

⑬ 特定外来生物のアライグマとタイワンリスの鎌倉市防除実施計画に協力しています。

⑭ 神奈川県藤沢土木事務所から河川管理協力員を委嘱されており(2001～)、神奈川県管轄の柏尾川・滑川・神戸川の護岸整備工事・維持管理等に際し、野生動植物の生息環境保全の面から助言を行なっています。

⑮ 貴重種・重要種に指定されている野鳥の繁殖環境保全に係わる自然環境調査等を実施中です。

【活動の成果】

鎌倉中央公園の湿性花園内に既存動植物の保全区域を維持しています。

主要緑地における環境モニタリング調査と湿地環境のエコアップ作業を継続しています。

近郊緑地保全地区や山崎・台峯緑地等の自然環境調査結果から、神奈川県と鎌倉市の整備・維持管理に対しアドバイスし、既存の野生動植物の保全に寄与しました。

重要な植物種を保護・移植・増殖する試みも実施しており、順調に推移しています。

獣類の“離れ”個体に係る情報等をまとめ、神奈川県と鎌倉市の関係機関に提供しました。

横浜国大附属小学校のビオトープ「ひょうたん池」を定期的にモニタリングし、維持管理について助言しました。

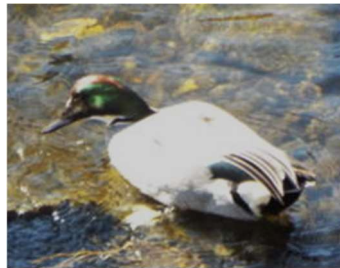
国史跡・永福寺跡の苑池や梶原 7 号緑地の調整池等のモニタリングを実施し、維持管理について助言を行い協力しました。

鎌倉市の許可を得て、市内の保全緑地や公園等にトレイルカメラを設置し、鳥獣の生態・保護に関わる情報の収集を図り、鎌倉市に情報を提供し、維持管理に役立てて頂いております。

近年、温暖化の影響か、川の護岸や橋などの老朽化が目立つため、モニタリング結果を定期的に神奈川県藤沢土木事務所や鎌倉市へ報告しています。



▲滑川のテナガエビ



▲柏尾川のヨシガモ



団体名	鎌倉ボランティアクラブ	会員数	1,174 名	代表者	勝元 晋平
活動目的	まちの美化活動／環境出張教育／生物多様性活動の推進				

【活動の内容】

1. まちの美化活動

三菱電機(株)鎌倉製作所及びインフォメーションシステム統括事業部、関係会社(6社)*1の有志を募り、通勤で利用している工場周辺の道路を隔週で清掃する「通い道クリーン活動」を行っています。本活動は03年度より開始し、17年度からは湘南町屋駅に「鎌倉市アダプト・プログラム」ののぼり旗を掲げて美化活動への意識の高揚を図っています。

また、鎌倉市と藤沢市を流れる柏尾川沿いの県道304号線を、周辺企業3社*2と一体になり年1回の頻度で鎌倉の環境保全に繋げる清掃活動や、鎌倉市が共催する「クリーンアップ鎌倉2022」、「かまくらプラごみゼロウィーク」に有志を募り積極的に参加しています。

【活動実績】

1) 通い道クリーン活動	: 2022年度	合計	1,174名参加
2) 県道沿い清掃	: 2022年度	合計	19名参加
3) クリーンアップ鎌倉	: 2022年度(秋)	合計	38名参加

2. 環境出張教育

近隣小学校の児童に、鎌倉製作所で製造している製品や社員一人ひとりが取り組んでいる工場での環境への取り組み、工場周辺の清掃の社会貢献活動、絶滅危惧種を守る取り組みなどを紹介しています。

今年で15年目の活動となり、継続的に開催することで、地域の子供たちへ環境マインドの醸成を図っています。

3. 生物多様性活動の推進

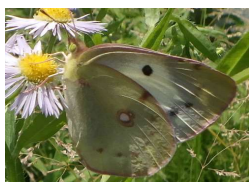
キンランとクゲヌマランの絶滅危惧種保全活動の様子を所内HPにて紹介し保全活動の意識を高めています。

【主な取り組み】

1) 構内緑地の整備

2) 絶滅危惧種保全活動の紹介







遊びに来たハクセキレイ、モンシロチョウ

所内 HP

*1：関係会社

三菱電機エンジニアリング(株)

三菱電機ソフトウェア(株)

三菱プレシジョン(株)

三菱電機ディフェンス&スペーステクノロジーズ(株)

菱電湘南エレクトロニクス(株)

菱栄テクニカ(株)

*2：周辺企業

(株)神戸製鋼所 藤沢事業所

中外製薬(株)鎌倉研究所

(株)江ノ電バス藤沢 湘南営業所

団体名	湘南・省エネネットワーク	会員数	18名	代表者	前島 仁
活動目的	気候変動、地球温暖化防止および省エネルギーなどの普及啓発活動への取り組み				
【活動の内容】私たちはSDGsの気候変動、エネルギー、教育など社会的な課題解決の目標に取り組みました。					
(1) 気候変動：地球温暖化防止 「広く情報発信」  		かまくら市民活動の日フェスティバル が12月にNPOセンター大で開催され、ポスター出展で団体の取り組み活動を紹介しました。 (500 人来場) JR鎌倉駅地下道のギャラリー展に活動内容をパネル展示で紹介しました。 ＊環境大臣賞の表彰状2枚を展示 (1500 人来場) 特別講演会 「環境にやさしいものづくり」環境適合設計・水素社会などについて横山宏氏を招聘して開催しました。 (18 人受講) 環境賢人者会合 「脱炭素社会の到来」を開催して、第1回を福田氏から「パリ協定と日本の取り組み、グリーン成長戦略」について意見交換しました。 (5 人受講)			
(2) エネルギー：省エネ・再エネ 「省エネを多くの方と共に実践」  		省エネカレンダー を12月に制作して、毎月の省エネ目標と行動について省エネアイテムをチェックして実施するよう働きかけました。 (22 人参加) 豊かな自然・環境と共生して 知恵と工夫のスマートライフで湘南の四季を愉しむ環境との共生をテーマにしています。1年間分の季節の花や寺社、自然の光景などを写真、歳時記と平均気温などを参照しながら、徒然なるままに湘南の四季を省エネ俳句と共に愉しんでいただく趣向になっておりますので、多くの方々から好評をいただきました。 [参加者の声] すばらしい写真、省エネ四十八手などとても楽しみです。			
(3) まちづくり：環境共生社会  		サステナブル見学会を8回開催して説明資料をメール配信で脱炭素の建築物を事例で紹介しました。 (136 人閲覧) 私たちがくらす鎌倉の持続的発展をめざして、環境共生と安全・安心なまちづくりについて身近な事例で紹介しました。 [受講者の声] 身近なまちづくりで日本での先端レベルの活動で凄いです。			

(4)教育：環境学習・体験講座  	夏休みボランティア（鎌倉女学院、湘南白百合学園）を受入れて講座を開催しました。環境共生と脱炭素社会「SDG s で環境共生社会づくりに取り組もう」を体験しました。当日は環境省職員およびグッドライフアワード実行委員会のメンバー、事務局らが視察され、環境省のホームページ上に掲載するための取材を受けました。 （3 人受講） 〔受講者の声〕 地球の未来は私達一人ひとりの行動が大切だと知りました。小さなことでも自分で出来ることを見つけて実践していきたいと思います。 慶応大学理工学部電気工学科卒業生の勉強会で「脱炭素社会に向けたセキュリティと環境・エネルギー・経済の調和」を講演しました。 （8 人受講） 県立小田原高等学校で公開講座 自然環境フォーラムに「気候変動とその影響 ～そして自分達で出来る対応策～」を講演しました。 （約 150 人受講）
(5)健康：ライフスタイルの転換  	スマートシニアライフ講座を5回連続で開催して、コロナ下での新しい生活様式ライフスタイルの転換や人生百年時代の到来で過ごし方の改革などを呼びかけました。脱炭素社会に向けてのエコライフ、ライフワークやエンジョイライフなどシニアの関心は高く、多くの方が熱心に受講されました。 （364 人受講） スマートシニアライフ宣言を環境ボランティア団体として表明しました。 〔受講者の声〕 ライフスタイルを心がけることなど実感を伴うことが沢山あります。
(6)パートナーシップ：連携  	SDGs への取組講座を 3 月に開催して、SDGs の気候、エネルギー、教育、健康、まちづくり、連携の 6 ゴールを取り上げて、紹介しました。 （89 人受講） 目標達成を目指した取り組みについて SDG s の自分事化について受講者と共に何が出来るかを考えてみました。 〔受講者の声〕 この運動がどう世間に受け入れられか注目して行きたいです。 長崎市立稲佐小学校を訪問して省エネ共和国を視察しました。他にも、創立 24 周年記念誌を作成して、他団体などへメールで配信しました。 環境や健康などをテーマにメールニュースを発信しました。 （5 千人回発信） 神奈川県環境基本計画の進捗状況についてのパブコメに意見陳述しました。

【活動成果】 自らの成果を広く紹介 展示会等のイベントへの出展： 2 回、来場者：約 2000 人 メールニュースの発信： 365 回、閲覧者：約 5 千人回 講座・フォーラムの開催： 19 回、受講・参加者：773 人 政策提言・パブリックコメントへの応募： 3 回、62 件	【今後の取り組み】 SDGs への取り組みを展開 わたしたちの活動は小さな歩みで少しずつ発展し、地域からまちづくり、社会へと進化してきました。 SDGs への取り組みを継続して地域の未来社会に貢献できるように、今後も一層の活動を展開していきます。
---	--

団体名	NPO法人鎌倉リサイクル推進会議	会員数	106名	代表者	高井幸恵
活動目的	ごみ発生抑制、減量や資源化の市民意識の啓発、廃棄物の再利用促進活動を推進				
【活動の内容】					
・かわら版（行事予定とその内容の案内）の毎月発行 ・ホームページによる啓発（毎月更新） ・鎌倉市の市民啓発活動への協働参加 ・リサイクルに関する相談アドバイス ・ウェスを集めて社会福祉協議会へ寄付等 ・「まちのコイン クルッポ」に参加					
◆展示部会					
・常設展示 ・季節の展示（端午の節句、夏の展示・蛍、クリスマス、お正月等） ・リサイクル作品展 ・鎌倉駅地下道ギャラリー展示 ・かまくら市民活動フェスティバル 2022 展示					
◆環境部会					
・名越クリーンセンター・植木剪定材受入事業場・テクノトランスの動画作成 ・2階スペースにごみや環境について学べる展示を充実 ・夏休みこども学習会で紙のリサイクルについて学習（紙すき体験付） ・学習会「親子で学ぶ地球環境と省エネ」開催 ・鎌倉リサイクル通信「ラ・ラ・ラ」第32号発行（年1回発行）					
◆イベント部会					
・「着物リサイクル市」開催（リサイクル作品展と同時開催） ・「リサイクルマーケット」「こどもリサイクルマーケット」「古着古本リサイクル市」は新型コロナウイルス感染症対策のため実施せず。					
◆生活の知恵部会					
合計 171 講座（鎌倉市からの受託事業と自主事業の合計）を開催					
・修理修繕教室 2 回 ・リサイクル手芸教室 20 回 ・衣類リフォーム教室 31 回 ・リサイクル工作教室 2 回 ・その他の教室 116 回					
【活動の成果】					
・受託事業は 53 講座・475 人参加、自主事業は 118 講座・955 人参加、合計 171 講座・1,430 人の参加となりました。どの講座も概ね 80%以上の参加となりました。 ・本会と NPO 法人シチズンネット、鎌倉市の三者による不用品登録協働事業（愛称：リユースネットかまくら）では、市民の「譲ります」「譲って下さい」の情報をインターネット上で公開し、不用品の橋渡しをする活動を行っています。登録 1,884 件に対し、応募は 1,511 件、成立は 1,295 件となり、目標の 1,000 件を大きく上回り過去最高となりました。成立率は 68%でした。 ・秋の「リサイクル作品展」に合わせて「リサイクル着物市」を同時開催しました。密を避けるため 3 週間の期間を設け、「リユースネットかまくら」も併用し、約 100 枚の着物や羽織・					

帯をリサイクルすることができました。

- 2年目となるウェスの回収は、約 195 kgを社会福祉協議会に寄付しました。
- 新たな企画として「まちのコイン クルッポ」のスポットとなり、手作り石けんのサンプルや端切れを提供し、今までリサイクルセンターに来たことのない方々が足を運んでくれるようになりました。

団体名	鎌倉のごみ減量をすすめる会	会員数	12名	代表者	臼田宗太郎
活動目的	行政・事業者・市民の協働で鎌倉のごみ減量をすすめる				
【活動の内容】					
●プラごみゼロ宣言への協力					
1) 給水器・給水設備関係の周知活動【ペットボトル⇒マイボトル】					
2) 海底ごみの現状の映像制作					
●啓発事業					
1) ごみ減量キャラバンの実施（分別・3Rの必要性・生ごみ処理）					
2) 海底ごみの調査とくじら模型展示で海底ごみに興味を持ってもらう					
3) 勉強会やセミナー開催					
4) 分かりやすい分別表の作成					
5) 食品ロスの削減を訴える					
6) 生ごみの水切りの徹底を訴える					
7) キエーロ・コンポストの活用の促進					
8) 資源物分別の実施					
●鎌人いち場への出展					
①キエーロ実演 ②クジラ模型開設 ③分別ゲーム の実施。					
●工場見学の実施					
●ホームページの更新					
●会員拡大					
【活動の成果】					
協力者も増えて活動も地に付いてきたと言える、特にごみ減量キャラバンは年間の生ごみ消費量の軽減に大いに寄与していると思っています。受講者の熱意が高いのを感じています。					
また、潜水調査での成果も年々上がってきております、プラごみの処理を考える素晴らしい具体物と思っています。					

団体名	鎌倉を美しくする会				会員数	17 名	代表者	高田 晶子
活動目的	落書きのないまちづくり							
7月	45	0	22	20	87	87	0	
8月	27	0	6	4	37	37	0	
9月	28	0	15	7	50	50	0	
10月	21	0	13	2	36	36	0	
11月	15	0	9	6	30	30	0	
12月	15	0	3	3	21	21	0	
1月	28	0	7	9	44	44	0	
2月	30	0	20	24	74	74	0	
3月	21	0	23	8	52	52	0	
累計	299	0	141	90	530	530		
合計	299		231		■2023.04.28現在未処理 ①大船西友社屋壁の配電盤 ② Pacific DRIVE-IN倉庫(文字 黒)			
総合計	530							

2000年当初、鎌倉市内もご多分に漏れず落書きで埋め尽くされ、それはあっという間の出来事に思えるほどの勢いでした。当会は落書きの広がりにより危機感を抱き、落書きゼロをめざして活動を開始、20余年が過ぎました。

その甲斐あって当時年間700件あった落書きも、2020年頃には282件までに減り、一定の活動成果に安堵していたところ、コロナ禍を経て、今年になってまた落書きが増え始めており、嫌な予感が頭を過ります。特に大船地区の増え方はかつてないことで要注意です。

昨年10月には神奈川県県会議員と鎌倉・大船両警察署を訪問し、資料を基に当会のこれまでの落書きゼロ活動と鎌倉市内の現状等お話し、更なる落書き常習犯逮捕へのご尽力をとお願ひしました。

以上

団体名	鎌倉の自然を守る連合会	会員数	6 自治・町内会 4500 世帯	代表者	中原 攻
活動目的	①連合会は広町緑地の保全獲得（2002年10月）でその中心的な役割を終え、次の段階として同緑地が都市林として機能するため、基本的構築や管理・運営に対して、指定管理者に意見発信していきます。そして、この「自然環境保護」の流れを次世代に継承していきます。 ②周辺自治・町内会の傘下会員に対して、緑地の関連情報を提供し、又、要望・意見を収集して都市林の管理運営に反映させていきます。 ③広町の森の環境保全に寄与することと同時に、市民（傘下会員）がこの森を如何に楽しむかの方向も模索し、その実践の先鞭的役割を担います。				
活動内容	1) 定例役員会を開催し、都市林構築の議論に参画します。 — 基本構想、基本計画、基本設計及び実施設計に関与し、指定管理者と協力して地元住民の立場で参画しました。 2) 広町緑地懇話会並びに「市民の会」総会に提言しました。 — 適時、傘下周辺自治・町内会員から広町緑地に対する利用方法や要望、意見を収集し、それを連合会として集約して提言しました。 3) 地域住民の福祉や厚生への寄与の一つとして取り組みました。 — 連合会組織内の「広町の森を楽しむ会」と連携して、周辺自治・町内会員に対しての福祉、厚生の一環で観桜会、観蛍会、観楓会等を実施しました。 4) 広報活動 ①活動内容を傘下会員に知らしめるため「連合会ニュース」は年に最低一回は発行しました。 ②春夏秋冬に合わせて「広町たより」を傘下自治・町内会員へ回覧板や掲示板等でお知らせしました。 ③「広町の森を楽しむ会」を連携し、毎年年末に次年度「広町の森自然カレンダー」を発行し、傘下全世帯に配布しました。同時に、地域内の公共施設や関連施設等にも配布しました。 5) その他（コロナ禍の中ではあったが） 広町緑地の自然環境保護の目的で、「5つの会」と協議し、年に最低一回は緑地内のボランティア活動を行います。今年度は外来種のトキワツユクサの草刈りを行った。				
令和 4年 4月 から 令和 5年 3月					

団体名	鎌倉の海を守る会	会員数	役員 13 名 (会員システムをとっていないため)	代表者	河合涼太
活動目的	本会は鎌倉の海浜とその周辺の自然環境及び景観を保全し、できるだけ人工の手を加えず後世に伝えることを目的としています。				
【活動の内容】					
1. 鎌倉の取り組みを「Facebook」にて活動を紹介					
2. かまうみ通信					
海岸地形と海浜植物および岩着生物などの海浜と周辺環境の写真撮影し「海岸レポート」を多数発行して、史跡指定、海域、稲村エコトーン、過酷な現場、丸階段の場所、鉄色の壁穴ならびに放置土嚢袋などを紹介して、多くの市民などと情報を共有する。					
(1)「稲村が崎の地盤崩壊が加速している!養浜はここからじゃない?」					
(2)ここは海域だ!					
(3)サンドリサイクル 坂の下編「そこじゃマジで保たない」って話し!					
(4)サンドリサイクル 材木座編「和賀江島の史跡指定が養浜の妨げになる」って話し!					
(5)丸階段復旧場所をよく考えて選ぼうよ!					
3. 鎌倉市海岸問題・養浜事業進捗と経過報告					
(1)下水道本管の経路について					
(2)由比ガ浜整地について					
(3)飛び砂対策? 緑化事業?					
4. 侵食と堆砂の状況調査					
坂の下の漁港問題と神奈川県養浜事業との関係で鎌倉市農水課と折衝(継続)					
5. 第藤沢土木事務所なぎさ港湾課とサンドリサイクルのテーマで、材木座～坂の下海岸を視察 5/11					
6. 3回鎌倉市海水浴場対策協議会に参加 5/26					
・鎌倉市海水浴場を再開するというので、神奈川県養浜事業が先行している。サンドリサイクル事業の経過観察をしているところであり整地について提言。					
7. 第17回表浜NW総会&オンライン公開シンポジウム 参加 6/26					
8. 第1回 鎌倉海岸七里ガ浜地区侵食対策協議会 参加 7/28					
9. 相模湾沿岸海岸侵食対策計画(鎌倉海岸七里ガ浜地区)に係る意見交換会参加 12/16					
10. 校外学習(総合的な学習、卒業研究)対応:玉川大学生(1名)、横浜国立大学附属鎌倉中学校生(4名)添付の写真参照					
11. ビーチクリーンアップ:会の活動で最も長いものの一つ。1997年以来、新型コロナウイルス感染症拡大のため活動形態を変更して実験的に実施。					
海岸清掃活動をSNSにて告知。当日海岸にゴミ袋を置き海浜利用者各自のボランティアに任せたと、多くの参加者とゴミ集積の成果がありました。					
12. 浜の植物を楽しむ会:新型コロナウイルス感染症拡大のため活動休止中					
13. 第二回砂浜シンポジウム開催を企画 12月予定(新型コロナウイルス感染症により見送り)					

【活動の成果】

鎌倉市の海岸の状況を市民の方々に認識してもらい、今後の海岸をどのように保全していくかについて考える機会を提供することで、私たちの問題として少しでも普及できたと思います。更に海岸を管轄する行政機関との情報共有も活発に行うことができ、神奈川県侵食対策協議会・七里ガ浜地区に委員参加しています。

市民への普及活動としては、地元の中学生に海岸で起こっている現状(ゴミ、マイクロプラスチックなど)について詳しく説明し、海の豊かさやきれいな海を未来へ引き継いでいくことについて学習させることができます。



海ごみ学習

横浜国大附属中 生徒3名

2022年11月8日



稲村ヶ崎海岸

海岸の砂がなくなって、消波ブロック投入音無川橋から撮影

2022年8月14日